

Ⅱ 事業報告

1. 教職員を取り巻く環境の変化

- (1) 2014 年度の主な管理者就任は次のとおりである。聖学院大学では、阿久戸光晴先生の聖学院大学長任期満了に伴い、姜 尚中先生が学長に就任したが諸般の事情で1年をもって退任した。学部長は任期満了による改選が行われ、政治経済学部長に阿久戸光晴先生、人文学部長に清水正之先生、人間福祉学部長に牛津信忠先生が再選された。また、聖学院大学大学院の研究科長は学部長が兼任し、政治政策学研究科長に阿久戸光晴先生、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長に清水正之先生、人間福祉学研究科長に牛津信忠先生が就任した。また、聖学院大学附属みどり幼稚園長に山川秀人先生が就任し、聖学院中学校高等学校では高等部長に伊藤豊先生が就任し、女子聖学院中学校高等学校では阿部洋治校長の辞任により田部井道子先生が校長に就任した。また、事務管理者として、関良二職員が特命局長に就任した。
- (2) 2014 年度は 2013 年度に引き続き、厳しい財政状況に鑑みて人件費の削減を継続して行うとともに資産の売却を行い財務の立て直しを図った。また、大学基準協会の認証評価を受けた。

① 人件費の見直し

2013 年度に行った両労働組合との人件費削減の協約内容を 2014 年度も引き続き実施した。

- ・賞与支給月数は国家公務員及び東京都職員の基準月数を下回る実績。
- ・聖学院中学校高等学校の出張旅費にかかる手当額の削減。
- ・理事報酬及び管理者の役職手当・職階手当（一部除く）を 20% から 50% の範囲での削減率でカット。

② 校地の売却

2005 年 2 月に J T（日本たばこ産業株）から購入した土地は、駒込キャンパス各校のグラウンドとして活用した後、聖学院幼稚園園舎及び聖学院小学校校舎建替えの際に仮園舎および仮校舎用地として活用し、小学校新校舎竣工後に売却した。

③ 財団法人大学基準協会による認証評価

7 年ぶりに行われた大学基準協会の認証評価の結果、大学基準「適合」の評価を得ることができた。

2. 教育環境の整備

- (1) 主な改修工事、購入等（1 千万円以上）

	(千円)
① 聖学院大学 キャンパス整備関連事業	83,840
《内訳》：4 号館書店、コンビニ、カフェテリア、テラス整、 1 号館・図書館前の緑化整備、2 号館トイレ改修工事 (パウダールーム設置)	
アクティブラーニング環境整備	78,068
教学システム (GAKUEN/UNIVERSAL PASSPORT)	33,372 (リース)
② 聖学院小学校 校舎新築事業	1,475,000

- (2) その他

聖学院大学
<GP>

2012 年度以降、新潟大学を監事校とする「関越大学グループ」(17 校) に属し、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を以下のテーマで活動をしている。

【テーマ A のテーマ 1：産学協働による学生の社会的・職業的自立を促す教育開発】が 2014 年度をもって終了した。2014 年度の交付決定は 2014 年 7 月 16 日、本学への交付日が 2015 年 1 月 23 日 (7,677 千円) と 2015 年 3 月 27 日 (2,559 千円) であ

った。

補助金額：グループ総額：168,297 千円 うち聖学院大学：10,236 千円

【テーマB：産学連携によるインターンシップ等の情報発信と専門人材育成】が 2014 年度から 2 年間にて行われている。2014 年度の交付決定が 2014 年 8 月 7 日、本学への交付日が 2015 年 3 月 27 日であった。2015 年度をもって終了となる。

補助金額：グループ総額：14,000 千円 うち聖学院大学：70 千円

<科学研究費補助金>

① 代表者分（本学の教員（RPD 含）が代表者の科学研究費補助金）

9 件 直接経費 11,330 千円 間接経費：3,399 千円

※学外研究分担者へ配分した直接経費及び間接経費の金額は含まない。

② 分担者分（他大学の教員が代表者の科学研究費補助金）

6 件 直接経費 770 千円 間接経費：231 千円

合計 15 件 直接経費 12,100 千円 間接経費：3,630 千円

3. 聖学院各学校の主な事業

[聖学院大学・聖学院大学大学院]

(1) 新たなる教育事業への取り組み

長年休止状態にあった「課外教養プログラム」を再開した。春学期に「巡視船あらかわ号で巡る放水路「荒川」の旅」と題して東京北区赤羽の荒川知水資料館を見学、荒川を巡視船で往復し防災事業について学んだ。秋学期には春日部市「首都圏外郭放水路」の見学ツアーを実施した。地下神殿と呼ばれる調圧水槽内部の見学を行った。

(2) 教育研究の充実

① 2001年度から実施した入学前準備教育「入学前スタートアップ講座」を、早期入学決定者に対応した入学前準備学習「入学前から始める聖学院の学び」に刷新した。参加を希望する学生のみを対象としていた講座から、全員が身体を使って参加するアクティブ・ラーニング型のプログラムへと変更し、参加費は徴収せずに行った。「全学プログラム」、「学科プログラム」、「e-ラーニング」の3本を柱にプログラムを構成し、高等教育から大学教育へと新入生が円滑に移行できるようなプログラムを展開した。

② 若手教員の研究を奨励するべく、大学教授会時の冒頭において研究発表のプレゼンを6回に分けて、6名の教員が行った。

(3) 環境基盤の整備

① アクティブ・ラーニング対応教室の整備として、近年、大学の授業において導入が求められているアクティブ・ラーニングに対応すべく、演習型教室19教室にそれぞれ可動式の机・椅子を設置。また、大教室2教室にスライディングウォール、可動式の机・椅子を設置することで、それぞれ演習型教室3教室に分割でき、合同教室として使用することが可能となった。さらに、多目的に使用できるエルピスホールおよびインターネット・カフェを加え、これらの教室全てに電子黒板機能付きプロジェクタまたはタッチパネルディスプレイ、無線LANアクセスポイントを設置した。これにより、本学の教室の約3分の1がアクティブ・ラーニング対応教室として整備された。

② 学生支援システム「UNIVERSAL PASSPORT」(略称:UNIPA)が、3月末からのWeb履修登録を皮切りに、学生に向けた各種サービス・情報の提供の場として本格稼働を開始した。従来の学内情報ページに代わり、様々な情報がUNIPAに一元管理され、学生にとっては履修状況や授業情報の確認、教員にとっては学生への連絡、課題の授受等が可能となるなど、サービス拡充が期待される。

③ 学生のためのアメニティ充実の必要性から、a)女子学生のためのパウダースペースを備えたトイレ改修、b)コンビニの充実、c)ブックセンターの開設、d)4号館食堂テラス及び周辺インターロッキング敷設、e)南キャンパスの緑化の5箇所を整備を行った。

(4) 国際連携

① 交換留学制度を利用し、2名の学生がアメリカに1年間交換留学に行き、帰国後は留学を希望する学生や、高校生達にその成果を披露しよい刺激を与えた。またアメリカより交換留学生1名が秋学期より1年間の予定で、本学で学んでいる。

② 短期海外語学研修を、カナダ、韓国、オーストラリア、アメリカで実施した。

(5) 学生生徒・教職員等の活躍

第93回関東学生陸上競技対校選手権大会女子1部走幅跳決勝準優勝(銀メダル)。第87回関東陸上競技選手権大会女子400m決勝優勝(金メダル)、同大会女子棒高跳決勝準優勝(銀メダル)、同大会やり投決勝準優勝(銀メダル)、女子400mリレー決勝準優勝(銀メダル)、女子三段跳決勝3位(銅メダル)。第25回関東学生新

人陸上競技選手権大会女子三段跳決勝優勝（金メダル）。

(6) その他

- ① 障害学生支援を目的として、障害学生支援室「オリーブデスク」を開設した。相談窓口を一元化し安心できる学生生活の基盤を作ることが可能となった。また、学生が得られる機会への平等な参加を保障するため、コーディネーターがアセスメントを行い、個々の障害の状態・特性等に応じた支援計画の作成、および支援実行のために各部署との連絡調整を行った。
- ② アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科では、3名の博士学位（課程博士2名、論文博士1名）を授与した。

[聖学院大学附属みどり幼稚園]

(1) 新たなる教育事業への取り組み

お父さんオープンディなど、気軽に幼稚園での園児の様子を参観していただく機会を増やし、家庭と幼稚園との連携と円滑な相互意思疎通の強化を図るようにした。

(2) 教育研究の充実

- ① 特別に支援が必要な園児に関しては、毎日の報告会などで教師間の共通認識を大切にし、園全体で一貫した指導が行えるように配慮している。
- ② さいたま・上尾キャンパス内にありチャペルを共用している聖学院教会との連携を強め、キリスト教保育の充実に努めている。

(3) 環境基盤の整備

広い園庭の整備のために土入れやベンチの増設、草刈りなどを実施した。

(4) その他

- ① 2・3歳児を対象とする未就園児クラスを、学期毎に実施し、特に第3期は幼稚園入園を前提として入園後の活動にスムーズに移行できるよう配慮した。
- ② 園児募集に向けて、親子で遊ぶ会や見学会の充実やホームページ、ブログ、ポスター、ちらしなどによる幼稚園の情報公開に努め、園の地域への浸透と遊びを中心とする保育の利点を広く知っていただくための活動を精力的に行った。

[聖学院中学校高等学校]

(1) 記念事業

110周年（2016年度）記念行事等への取り組みとして、記念誌、記念祝賀会開催などの検討（担当者の配置）を行った。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

- ① 全ホームルーム教室への電子黒板装置設置が完了した。
- ② ICT教育の具体的実施に向けた検討（教育方法、機材、施設等）を行う。

(3) 教育研究の充実

昨年に引き続き、授業研究週間の実施、21世紀型教育の推進、帰国生サポートの研究を実施した。特にアクティブ・ラーニング授業の推進を図った。

(教育研究の整備)

21世紀型教育、アクティブ・ラーニングを推進するための教員研修会を実施した。

(4) 環境基盤の整備

- ① 建築以来15年が経過する校舎の随時修繕・補修工事を実施した。
- ② 120周年（2026年）記念事業として中学棟及び体育館の建設計画を継続検討している。

(5) 国際連携

- ① 昨年に引き続き、アメリカ・ハワイの提携高校へ留学生（高II生徒3名1年間）をおくる。
- ② タイの研修旅行を通じて、国際ボランティアを考えた。

(6) 学生生徒・教職員等の活躍

2014年度U-22プログラミングコンテストで中3生徒が経済産業大臣賞を受賞。
クエストカップ2015全国大会で中3生徒4名がグランプリを受賞。

[女子聖学院中学校高等学校]

(1) 記念事業

創立110周年に向けて記念行事の内容並びに実施時期を検討し、具体的には①オルセースクールミュージアム(5月)、②教育講演会(7月)、③記念式典(11月)と決定した。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

① 国際理解教育プログラムのさらなる拡充を行った。

- ・2校へのターム留学(オーストラリアのミッションスクール、フェアホルムカレッジとクリスチャンアウトリーチカレッジ)に7名が参加した。フェアホルム(5名)は女子校、アウトリーチ(2名)は共学校。
- ・フェアホルムカレッジへの年間留学も導入した。ターム留学を経験して、1年間の留学をしている生徒1名。
- ・立教英国学院への1年間留学を次年度実施に向けて整えた。
- ・希望制集中英語プログラムから学年必修プログラムへのバージョンアップを、次年度実施に向けて検討し、整えた。
- ・プログレッシブイングリッシュクラスを中1のみから中2、中3まで拡充した。

② 電子黒板を購入(ポータブル5台)し、効果的に活用した。

③ 防災委員の活動が充実した。

- ・各クラス2名の防災委員による1日校内宿泊訓練を実施した。災害時を想定しての貴重な体験となった。
- ・防災委員全員並びに生徒会委員の希望者が「ジュニア防災検定」を受験し、検定に伴う事前・事後課題学習を通して、防災に対する意識を高めることができた。

(2) 教育研究の充実

① 研究授業(英語・社会科)を実施し、電子黒板を用いての授業等、教師同士が授業を見合い、学び合う機会となった。

② ICT教育、バカロレアの研修会に参加し、今後の導入の糸口とした。

(3) 環境基盤の整備

① 防災関連の充実をはかった。

- ・大震災に備えて生活用水を確保するため、井戸を掘削した。
- ・教職員による自家発電訓練を実施した。
- ・校庭にハーブを植栽し、災害時での校内宿泊時のアロマセラピーとしての活用を検討した。

② 設置・修繕等の実施(主なもの)。

- ・正門入口プランターの設置
- ・体育館屋上防水工事
- ・体育館アリーナA照明器具落下防止工事
- ・クローソンホール音響設備改修
- ・防災井戸工事

(4) 人事の活性化

中長期的視点からの学校のあり方を見据え、将来計画推進室の次年度よりの始動を検討した。(2015年より実施)

(5) 国際連携

① ケネディ米国駐日大使の昨年の来校を機に(日米国際交流プログラム)、米

国大使館（大使主催）との関係が継続している。高校生数名が各種プログラムへの招待に参加し、意欲を高める機会となった。

② 年間生(AFSより2名)・短期留学生(AFS他16名)を受け入れた。

(6) 学生生徒・教職員等の活躍

- ① 中学テニート部 ・全国大会 ベスト8 ・北区子どもかがやき顕彰、北区みらい賞 5名
- ② 高校テニート部 ・北区子どもかがやき顕彰、北区みらい賞 2名、 ・全国大会 ベスト16
- ③ 高校演劇部 ・城東地区大会優秀賞、 都大会出場 ・城東地区冬季合同発表会 優良賞
- ④ 中学吹奏楽部 ・都中学校吹奏楽コンクールA組 銀賞 ・都中学校アンサンブルコンテストA部門 木管八重奏 金賞 B部門金管八重奏 銀賞
- ⑤ 高校吹奏楽部 ・都高等学校吹奏楽コンクールA組 銀賞 ・都高等学校アンサンブルコンテスト クラリネット八重奏 銀賞 金管八重奏 銀賞
・2014TAMAアンサンブルフェスタ 高校の部 木管五重奏 金管八重奏 銅賞
- ⑥ 高校バドミントン部 ・東京バドミントンクラブ ニューイヤーカップ 2015 第5支部大会 全勝優勝
- ⑦ 高校陸上部 ・第3支部学年別大会 やり投 8位(高Ⅱ) 同6位(高Ⅲ) 円盤投げ 2位(高Ⅲ) 走り幅跳び 6位(高Ⅰ)
・都大会 1年生大会出場 ・第3支部新人大会 やり投げ 6位(高Ⅱ)
- ⑧ 個人の表彰 生徒 ・全国高校生歴史フォーラム 佳作(高Ⅱ) ・第13回桜井徳太郎賞 小中学生の部 佳作(中3) ・全国学校書道展 特別賞(中3) 特選 6名(中3) ・北部ブロックB級水泳競技大会 100m自由形・50mバタフライ 銀メダル 50m自由形 銅メダル(中1) ・税についての中学生の作文 佳作1名(中3) ・北区明るい選挙啓発ポスターコンクール 入賞(中3) ・第30回防災ポスターコンクール 入賞(中3) ・第51回全日本書初め大覧覧会 日本武道館賞 4名(高Ⅱ、高Ⅰ) ・ジュニア防災検定 優秀賞(中3)
- ⑨ 個人の表彰 教師 ・学校防災に関する研究について東京都私学財団より表彰。研究テーマ「学校設備を有効活用する防災教育の一考察」、「教科(物理)を生かした学校防災の取り組み」

(5) その他

- ① 盛夏服の着用時期を7月～9月と決定し、実施した。
- ② 盛夏服用カーディガンの作成を検討。生徒の希望を取り入れる。(2015年より着用)

[聖学院小学校]

(1) 記念事業

創立50周年記念事業として開始した新校舎建築が終了し、2015年1月より供用を開始した。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

- ① 子どもたちが話し合ったり、教えあったり、共同で作業を進める授業形態であるワークショップ型授業を推進した。

- ② 児童の奉仕活動を充実するため、児童会主導の全校児童会の開催、部会活動の委員会活動への改編を実施した。
- (3) 教育研究の充実
 - 2015年度、4年生以上は一人一台のiPadを持つことになるため、授業で有効に使うための研修会、ワークショップを年3回実施した。
- (4) 教育研究の整備
 - 全専任教職員にiPadを貸与し、授業等での活用を進める環境を整えた。
- (5) 環境基盤の整備
 - 新校舎完成（ICT設備充実・・・電子黒板、実物映写機、ネットワーク環境整備）
- (6) 国際連携
 - 2014年7月22日から30日まで5年4人、6年9人の計13人が参加して、オーストラリアホームステイを実施した。
- (7) その他
 - ① 新校舎が十分な耐震、防火設備を整えていることに加え、災害時の教職員による児童誘導、安全確認体制といった自衛消防組織とその活動能力が評価され、滝野川消防署より優良防火対象物の認定を受けた。
 - ② 新校舎完成にあわせ、スクールランチ（給食）を始めた。スクールランチは1階のランチスペースで1年生から6年生の縦割りで実施している。
 - ③ 全専任教職員にノートパソコンを貸与し、会議、諸報告のペーパーレス化を進めた。

〔聖学院幼稚園〕

- (1) 記念事業
 - 100周年記念誌を発行した。
- (2) 新たなる教育事業への取り組み
 - 朝8時からの預かり保育を開始した（無料）。
- (3) 教育研究の充実
 - 年少組の人数が少なかったこともあり、縦割り保育の回数を増やし、異年齢の交流が深まった。
- (4) 環境基盤の整備
 - 小学校新校舎建築の外構工事に合わせて、園庭西側端に緑地化整備を実施した。

〔聖学院アトランタ国際学校〕

- (1) 新たなる教育事業への取り組み
 - ① ジョージア州からチャイルドケア認可を受け、6時までのアフタースクールを開始した。
 - ② ピーチツリーコーナー市から特別使用許可内容変更を許可され、下校後、バイオリンクラスや空手クラスが校舎を使用するようになった。
- (2) 教育研究の充実
 - ① 2014年度は「平和」がテーマで平和教育に力を入れた。
 - ② 幼稚部では今年度も水曜に縦割り保育の時間を設け、年齢を超えた交流と学びあいを重視した。
 - ③ 日本語を第二言語として学んでいる児童への特別支援に力を入れた。
- (3) 国際連携
 - ① 20周年を記念として始まったサービスラーニングプロジェクトのひとつとして、今年も幼稚部がベークセールを行い、フィリピンサンダルプロジェクトに参加し450足のサンダルをプレゼントした。
 - ② ペンテコステ礼拝では保護者・教職員有志が、8つの言葉で聖書「使徒言行録」を朗読した。

(5) 学生生徒・教職員等の活躍

- ① 日本から来た6年生が、英検準一級に合格した。
- ② 日本語を話さないアメリカ人家庭で、日本に一度も行ったことのない5年生が大学生や社会人に交じって日本語能力試験3級を受け、合格した。
- ③ 日本人児童の合格者に加え、日本語を話さないナイジェリア出身の家庭で育ち、一度も日本に行ったことのない5年生が漢検6級に合格した。
- ④ 幼稚部からも漢検10級合格者が出た。
- ⑤ 日米協会ディナーで5・6年有志が歌を披露した。

(6) その他

- ① ジョージア州知事夫人による本の読み聞かせ、外務省子女教育室長の視察訪問、日本国アトランタ総領事館より総領事夫人による「音楽は共通言語」プログラム、ジョージア州教育庁外国語教育担当者の視察訪問、和太鼓を学ぶアメリカの小学生の訪問等を通して様々な交流が行われた。
- ② 同窓生が、関西学院千里国際中学に合格。卒業生は大学レベルでは、今年東京外国語大学(2名)、ICU、筑波、明治、立教、立命館、早稲田大学等に合格した。アメリカではアイビーリーグのコーネル、アメリカン、ボストン、エモリーオックスフォード、ミシガン、ジョージア、ジョージア工科、ジョージア州立大学等に合格した。

[法人]

(1) ASF推進委員会・総会

聖学院大学チャペルにて、第28回ASF推進委員会・総会が開催された。2013年度募金結果発表に続いて、これまでに高額のご寄付をいただいた方々に感謝の意を表した。次いで村山順吉小学校校長による改築工事の進捗状況と完成後の新しい校舎での教育が熱く語られ、次いで姜尚中大学長から厳しい学生確保の時代に合って、学生のためのアメニティ充実の計画が発表された。

(2) 聖学院小学校校舎竣工式

新校舎において1月31日に竣工式がチャペルにおいて執り行われ、ASF小学校記念事業を始め様々におささえくださった方々をお招きし盛会に終えた。

(3) 高等教育施設用地の売却

日本たばこ産業株式会社より、2005年2月15日付けで1,670,000,000円(税込)で購入した土地(東京都北区中里3丁目357番地8/4,167㎡)を、2015年3月25日付けで野村不動産株式会社へ2,600,000,000円(税込)で売却した。